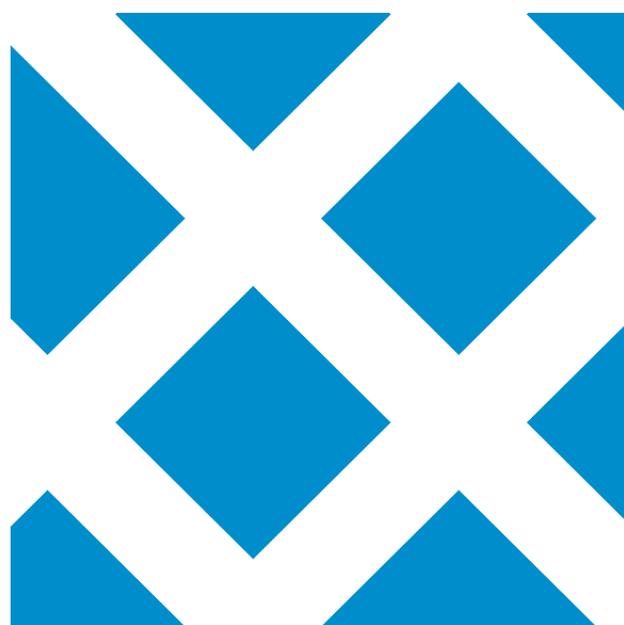


教育委員会事務の点検・評価報告書

(平成27年度対象)



平成28年9月

萩市教育委員会

■ 目 次

1 教育委員会事務の点検・評価について	・ ・ ・ ・ ・ 1
(1) 趣旨	
(2) 点検・評価の対象事業	
(3) 点検・評価の方法	
2 教育委員会の活動について	・ ・ ・ ・ ・ 1
(1) 教育委員会会議	
(2) その他の活動	
3 点検・評価の結果	
<事業点検・評価シート>	
No.1 ふるさと萩への誇りと志の育成	・ ・ ・ ・ ・ 3
No.2 学力の向上	・ ・ ・ ・ ・ 7
No.3 豊かな心の育成	・ ・ ・ ・ ・ 10
No.4 健やかな体の育成	・ ・ ・ ・ ・ 14
No.5 地域コミュニティの核としての学校づくり	・ ・ ・ ・ ・ 16
No.6 教育の専門家としての教師の育成	・ ・ ・ ・ ・ 18
No.7 特色ある学校づくりの推進	・ ・ ・ ・ ・ 20
No.8 教育環境の整備	・ ・ ・ ・ ・ 21

1 教育委員会事務の点検・評価について

(1) 趣 旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、平成20年4月から施行されたことに伴い、教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないこととなりました。

萩市教育委員会では、法の趣旨に則り、「教育委員会事務の点検・評価」を次のとおり実施し、報告書にまとめました。

(2) 点検・評価の対象事業

点検・評価に当っては、萩市学校教育振興基本計画（平成27年度～平成31年度）の第3章の重点取組事項として掲げる次の8項目を対象としました。

この報告書における点検・評価の対象とした重点取組事項

- ・ふるさと萩への誇りと志の育成
- ・学力の向上
- ・豊かな心の育成
- ・健やかな体の育成
- ・地域コミュニティの核としての学校づくり
- ・教育の専門家としての教師の育成
- ・特色ある学校づくりの推進
- ・教育環境の整備

(3) 点検・評価の方法

- ・重点取組の項目ごとに点検・評価シートを作成しました。
- ・点検・評価シートにおいて、重点取組の目的を明らかにするとともに、目標を掲げました。

また、実施状況に係る成果を検証し、今後の取組について検討しました。

- ・点検・評価の結果について客観性を確保するため、学識経験者で構成する萩市教育委員会事務の点検・評価委員会を開催し、意見をいただきました。

2 教育委員会の活動について

(1) 教育委員会会議

平成27年度においては、教育委員会会議を13回開催し、34件の議案を審議、可決しました。内容は、次のとおりです。

① 教育行政の基本方針に関する事項	4件
② 学校運営に関する事項	1件
③ 教育委員会規則等の制定又は改廃に関する事項	12件
④ 教科用図書採択等に関する事項	2件
⑤ 人事に関する事項	2件
⑥ 各審議会等委員の任命に関する事項	12件
⑦ 教育委員会事務の点検及び評価について	1件

(2) その他の活動

- ① 学校訪問 小学校21校 中学校15校

全小学校及び中学校を訪問し、各学校の教育活動やコミュニティ・スクールの取組等について説明を受け、授業参観での感想や意見を述べ、学校施設の現況についても説明を受けました。

② 教育委員研修

- ・市町村教育委員会研究協議会（西日本ブロック）への参加

奈良県で開催されました文部科学省主催の研究協議会に参加し、研修を受けました。

- ・山口県市町教育委員研修会への参加

山口県主催の研修会に参加し、研修を受けました。

3 点検及び評価の結果

平成27年度 点検・評価シート

NO. 1

重点取組事項	ふるさと萩への誇りと志の育成	担当課	学校教育課
目的	主体的に自らの未来を切り拓くとともに、郷土に誇りと愛着をもち、地域に貢献する子どもたちを育成するため、学校と家庭、地域、産業界等が連携した志教育の一層の推進を図る。		
目標	①萩・農下村塾事業・・・農業体験、職業講話実施率100% ②13歳 志プロジェクト事業・・・1/2成人式、立志式の実施率100%、キャリア教育資料の活用率 100% 将来の夢や目標をもっている児童・生徒割合の向上 ③松陰教学推進事業・・・副読本活用率100% ④萩・お宝活用プロジェクト事業・・・各プロジェクトの実施率90% ⑤長州ファイブジュニア派遣事業・・・派遣生徒及び保護者の満足度100%		
実施状況	①萩・農下村塾事業 農業体験が難しい地域にある小学校を対象として、農政課と連携して米作り体験を実施するなど、全ての小中学校において、地域の特色を生かした農業体験に取り組んでいる。また、中学校の職場体験では、農業選択が難しい地域にある中学校を対象として、中山間地への移動手段を保障するなど、その機会を提供している。 ②13歳 志プロジェクト事業 各校において、志シートを活用した1/2成人式及び立志式を実施し、児童生徒の夢やあこがれを志まで高めようとするキャリア教育が推進されている。 また、職場見学や職場体験も児童生徒数によって隔年または3年に1度という学校もあるが、全ての学校において行われ、児童生徒の職業意識を高めることにつながっている。 萩市キャリア教育推進資料「HAGI『志』サポート」を全ての中学校において活用することで、キャリア教育の充実につながっている。 ③松陰教学推進事業 小学3年生では「わたしたちのふるさと萩」、小学4年生では「松陰読本」、中学1年生では「郷土 萩」の副読本を配付し、各教科の学習を進める上で、豊かな自然、価値ある歴史、伝統的な文化や産業を学ぶための資料として活用する。 ④萩・お宝活用プロジェクト事業 ○プロジェクトI（しゃぼん玉教室、水芭蕉教室） ・至誠館大学教授と小・中学校教員とT・Tによる音楽教室を実施した。		

	<p>○プロジェクトⅡ－萩美術館・浦上記念館、観覧体験学習を実施した</p> <p>○プロジェクトⅢ－萩博物館体験学習を実施した。</p> <p>・各学校で文化施設や文化財等を生かした観覧体験や体験学習を行った。</p> <p>⑤長州ファイブジュニア派遣事業</p> <p>平成18年度から平成28年度で11年目を迎えている。イギリスのロンドンに語学研修として、市内中学生を毎年5名ずつ派遣してきた。毎年5名の中学生は志を高く掲げ、語学研修だけでなく、イギリスの文化を学んだり、いろいろな国籍の青少年とともに交流したりして、多くのことを学んで帰国している。</p>
成 果	<p>①萩・農下村塾事業</p> <p>○ 農業体験、職業講話実施率 100%</p> <p>各校では、農業に詳しい地域の人材を活用して取り組んでおり、地域住民とのつながりを深める一助となっている。特に米作りでは、農事組合法人と連携した取組を進めることで、専門的な知識や技術を得るだけでなく、地域に誇りと愛情をもって働く人々と接する機会にもなり、萩を誇りに思う児童生徒の心情を育む機会となっている。</p> <p>②13歳 志プロジェクト事業</p> <p>○市内小学校における1/2成人式の実施率 95.2% (20/21校)</p> <p>市内中学校における立志式の実施率 93.3% (14/15校)</p> <p>※該当学年の在籍数が0などの理由による</p> <p>○市内小学校における職場見学の実施率 85.7% (18/21校)</p> <p>職場体験の実施率 61.9% (13/21校)</p> <p>※隔年実施等の学校あり</p> <p>市内中学校における職場体験の実施率 93.3% (14/15校)</p> <p>※見島中：3年に1回実施</p> <p>○市内中学校における「HAGI『志』サポート」の活用率 100%</p> <p>○将来の夢や目標をもっている 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合 (H27 全国学力・学習状況調査より)</p> <p>・小学校－88.4% (89.6%)</p> <p>・中学校－79.6% (72.8%) ()内は、平成26年度</p> <p>③松陰教学推進事業</p> <p>○副読本活用率 100%</p> <p>児童生徒が萩の自然、歴史、文化、産業などについて学習する際、萩をより深く知る身近な資料として有効に活用された。また、授業中、疑問や課題を自分の力で解決するときに役立てられた。</p> <p>④萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <p>○ プロジェクトⅠ しやぼん玉教室 水芭蕉教室</p> <p>・しやぼん玉教室 (小学校) 17校実施 実施率81%</p> <p>・水芭蕉教室 (中学校) 7校実施 実施率47%</p>

	<p>○ プロジェクトⅡ（各数字は、36校中何校かを示す）</p> <p>*プロジェクトⅡの実施率－100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩美術館浦上記念館－17校 ・大照院－4校 ・花燃ゆ館－36校 ・世界遺産関連地－21校 ・ジオサイト－3校 <p>○ プロジェクトⅢ</p> <p>*プロジェクトⅢの実施率－58%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩博物館－21校 ・音楽プロジェクトでは、歌詞の意味を考えながら歌うことをとおして、歌や歌うことのよさを感じた児童生徒が多く見られた。 <p>校外学習プロジェクトでは、市内にある多くの文化施設、文化財等を活用して学習を充実させることができた。事後の感想からは、萩を誇りに感じている児童・生徒を多数見取ることができた。</p> <p>⑤長州ファイブジュニア派遣事業</p> <p>○ 派遣生徒、保護者の満足度 100%</p> <p>毎年中学生5名が、イギリスで長州ファイブゆかりの地訪問により、明治維新胎動の地としての萩市を再発見するとともに、郷土を愛し、郷土に奉仕する機運を高めることにつながっている。派遣した生徒及び保護者の満足度は非常に高い。</p>
今後の取組	<p>①萩・農下村塾事業</p> <p>各地域の特産品にも着目し、生産に携わる人々の願いや特産品を守り育てる苦勞などに触れる活動を充実させることで、地域とのつながりを一層深めていくとともに、萩市の第一次産業の特長を実感できるような体験活動を充実させていく。</p> <p>②13歳 志プロジェクト事業</p> <p>1/2成人式や立志式の実施方法をさらに工夫し、保護者や地域と共に行うことで、9カ年の子どもたちの育ちを地域とのつながりの中で支えられるよう、学校運営協議会等で示すなどして地域へ発信していく仕組みづくりを促進する。</p> <p>③松陰教学推進事業</p> <p>あらゆる学習の場面で、副読本を活用することにより、ふるさと「萩」のすばらしさを知るとともに、萩を愛し、誇りに思い、大切にしていこうとする気持ちを高めていきたい。</p> <p>④萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <p>音楽学習プロジェクトでは山田真治教授が平成27年度末に異動となったため今後継続していくための人材確保が最重要課題である。</p> <p>校外学習プロジェクトでは、各地域事務所との連携を密にして、地域事務所のマイクロバスも活用して学校のニーズに応じた多様な学習活動を展開できるようにしていきたい。</p> <p>⑤長州ファイブジュニア派遣事業</p> <p>今後も毎年5名の中学生をイギリスへ派遣していきたい。そして、ふるさと萩を誇りと愛着をもち続け、豊かな国際感覚をもちながらグローバルな視点で行動</p>

	できる人材を育成していきたい。
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・農下村塾事業で農業体験をされているが、稲の生育状況を間近で観察できるような工夫をしていただきたい。 ・それぞれの地域の特性を活かした体験学習を取り入れるようにしていただきたい。 ・農家ではないので子どもに農業体験をさせることができないが、農下村塾事業で農業を体験でき、子どもにはいい経験になった。 ・各学校で特色ある活動（和船競漕等）をされているが、このような活動は継続して続けてもらいたい。

重点取組事項	学力の向上	担当課	学校教育課
目的	各小・中学校における学力向上の取組の工夫改善や充実を図るとともに、小・中連携・小小連携・中中連携や保護者・地域との協働により、萩市内の児童生徒に「確かな学力」をつけさせる。		
目標	<p>① 確かな学力育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業評価実施(中学校) 100% ・学校運営協議会委員参加の授業改善への取組 80% ・PDCAサイクルに基づく授業改善 100% ・すべての教員年間2回以上の授業公開の実施 100% ・全国学力・学習状況調査における各校の各教科平均正答率全国平均より3%以上のアップ 到達校80%以上 <p>② 学校支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩市教育研究大会における参加者の満足度 80%以上 ・チェックリストによる授業改善の実施率 100% 		
実施状況	<p>①確かな学力育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーフレット「萩市の学力向上をめざして（萩市重点取組事項チェックリスト）」 「学校の力を伸ばす組織づくり」「わかる・できる・楽しい授業づくり」 「家庭と連携した学習習慣づくり」「落ち着いて学習に取り組める環境づくり」の推進と、 チェックリストを用いた研修を実施。 ○中学校における毎時間の授業評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの声に真摯に耳を傾け、授業改善を図る。 ・評価表の配付回収の仕組みの工夫 ・評価の観点の工夫 ○年2回のPDCAサイクルにもとづく授業改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各学力調査による児童生徒の学力の把握、課題の洗い出し、具体的方策の実施 ・基礎的・基本的な学習内容の定着に向けたやまぐちっ子学習プリントの活用 ○校内研究授業及び互見授業、学力向上推進リーダー等の訪問日における授業公開を積極的に実施。すべての教員が年間2回以上は公開。 ○小規模校同士の集合学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・旭地域交流→明木小学校、佐々並小学校 ・山間部、島嶼部交流授業→木間小学校、大島小学校、相島小学校、見島小学校 木間中学校 大島中学校 相島中学校、見島中学校 ○小規模校と中・大規模校の交流学习の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の児童生徒が交流学校における授業や行事に参加（相島小学校→椿東小学校、相島中学校→萩東中学校、見島小学校→椿西小学校、見島中学校→萩西中学校 木間小学校→三見小学校） 		

	<p>○参観日、ユニット型研修、校内授業研究会を生かした学校運営協議会委員の授業参観の実施</p> <p>②学校支援事業</p> <p>○萩市学校教育研究発表大会では、今日の教育課題に応える平素の教育実践の成果を発表し合い、萩市の学校教育の充実と開かれた学校づくりの推進を図る。</p> <p>平成27年度大会主題 「今もむかしも志高く、～グローバル化社会に生きる児童生徒の育成～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の志メッセージ ・長州ファイブ・ジュニア語学研修経験者が「志」について市長との座談会 ・研究物の展示による教育活動の紹介 ・講演会 など <p>○ALTの派遣による外国語活動・英語科教育の充実</p> <p>語学指導を行う外国青年6名を、中学校英語教育ならびに小学校外国語活動の改善・充実を図るために派遣している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セーラ 女性 カナダ出身 萩東中・大島小中・大井小中 ・ジョシュ 男性 アメリカ出身 萩西中・越ヶ浜小中・三見小中・見島小中 ・レベッカ 女性 イギリス出身 椿西小・明倫小・椿東小・白水小 ・サンドラ 女性 アメリカ出身 川上・木間小中・旭中・明木小・佐々並小 ・ローレル 女性 アメリカ出身 むつみ小中・福栄小中・椿東小 ・ロバート 男性 カナダ出身 田万川中・須佐中・多磨小・小川小・育英小・弥富小 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校における外国語授業や小学校における外国語活動の補助 ・外国語教材作成の補助及び外国語能力コンテスト等への協力 ・教員に対する外国語研修への補助 など <p>○指導主事の学校担当制による学校訪問 年間延べ1000回以上の訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な訪問による授業参観・授業へのアドバイス ・校内研修における指導助言 <p>○へき地・複式教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT実証研究事業 佐々並小学校、明木小学校の遠隔合同授業への積極的支援
成 果	<p>①確かな学力育成事業</p> <p>○毎時間の授業評価実施率(中学校)ー 87%</p> <p>○学校運営協議会委員参加の授業改善への取組ー 64%</p> <p>○PDCAサイクルに基づく授業改善への取組ー 100%</p> <p>○すべての教員年間2回以上の授業公開の実施率ー 100%</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果ー各教科の平均正答率3%以上の学校ー 60% (平成27年度木間小・中、見島中以外全実施)</p> <p>小学校：国語のA・B、算数A、理科で全国平均を上回り、算数Bは全国平均とほぼ同じ</p> <p>中学校：国語のA・B、数学のAは全国平均を上回り、数学Bと理科は全国平均を下回った。</p> <p>○当指導主事及び学力向上推進リーダー等による研修の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの学校で校内研修会が活発に実施され、ミニ研修等も日常的に実施されるよ

	<p>うになった。指導主事及び学力向上推進リーダー等の派遣要請も多くなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区内での合同研修会や近隣の同校種による合同研修会の実施により研修の活性化や、共通理解事項について同一歩調での実施が見られるようになった。 <p>②学校支援事業</p> <p>○萩市教育研究大会における参加者の満足度－90%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会主題に沿ったプログラムで構成 ・志メッセージ・・・小学生5名、中学生3名がステージで堂々と発表した。 ・長州ファイブ・ジュニア語学研修経験者が市長との座談会により、「志」について語り、グローバル化社会に生きる児童・生徒の育成について考えることができた。 ・各学校、個人の研究物展示・紹介により、各校での取組の参考となった。 ・講演会では「グローバル化社会に生きる児童生徒の育成」という演題で外国語活動について講演され、学校教育の今後の方向性を理解することができた。 <p>○チェックリストによる授業改善の実施率－100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の校内研修に市教委担当指導主事が参加し、チェックリストに基づいた指導助言を行った。また、学力向上担当者会議(市教委主催)において、授業改善の指針となるようその活用を指示した。
<p>今後の取組</p>	<p>① 確かな学力育成事業</p> <p>全国学力・学習状況調査等の結果が小・中ともにやや下降傾向が見られる。課題を課題のままにせず、各学校において具体的な取組が実施されるよう働きかけたい。学力向上の核は日々の授業改善にあると捉え、学校を継続的に支援したり、学校の学力向上の中核となる教員に研修の場を提供したりして、教員一人ひとりの授業力向上を図っていききたい。</p> <p>② 学校支援事業</p> <p>今日の教育課題に応える平素の教育実践の成果を発表し合う場として、子どもたちや保護者、学校運営協議会委員、地域住民の方々へ広く参加を呼びかけていきたい。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の授業に比べ手厚い、分かりやすい授業内容となっているが、学力向上のためにできない部分を復習するような授業をしていただきたい。 ・集合学習や交流学习を通じて子どもたちの交流の輪が広がるので、今後も積極的にしていただきたい。 ・今後も授業評価を実施して、授業の改善等により学力向上につなげていただきたい。

重点取組事項	豊かな心の育成	担当課	学校教育課
目的	いじめや不登校等の生徒指導上の諸問題の未然防止を促進し、問題を抱えた児童生徒及び保護者に対して支援を行う。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 生きる力をもった子ども育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ目標の設定及び学校評価への位置づけ－100% ・ 週1回以上アンケートの実施－100% ② スクールガードリーダー設置事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間登下校時における無事故の学校の割合－80% ③ 子ども相談・支援室事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子ども相談・支援室が役に立った」という学校の割合－90% ・ いじめ、不登校、暴力行為の出現率・発生率の減少 ④ 子育て科創設事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子育て科」の実施率－100% 		
実施状況	<p>① 生きる力をもった子ども育成事業</p> <p>萩市は中学校区の小・中学校で、9年間を見通して、生活規律・学習規律の重点取組項目ーチャレンジ目標を決めて、全ての教職員が一貫して指導を行い、児童生徒の「生きる力」を醸成している。「時間を守る・あいさつや礼儀・そうじをまじめにする」などである。特に各学校はその目標の達成のために、チャレンジ目標を設定し、学校評価にも位置づけ、具体的な数値目標を掲げ実践し、PDCAサイクルで検証している。</p> <p>また、週1回以上の生活アンケートを各校実施し、学校生活の満足度や困り感を記入し、いじめ・不登校の未然防止、早期発見に努めている。</p> <p>② スクールガードリーダー設置事業</p> <p>スクールガードリーダーは、市教委と学校、地域のパイプ役として学校を巡回訪問しながら、管理職や教職員への指導助言、学校内外のパトロール、防犯訓練の講師、通学路の安全点検などを行っている。現在3名のスクールガードリーダーが手分けをして35の小中学校へ、1校あたり平均約4回訪問し、学校の安全管理に関わる様々な業務に当たっている。</p> <p>③ 子ども相談・支援室設置事業</p> <p>萩市の小中学校の生徒指導上の問題の解決、いじめ、不登校、児童虐待等の困難な課題に対して、専門的かつ継続的に対応するため「子ども相談・支援室」（萩市教育委員会内）が中心となり、子どもに関わる相談や支援の充実に努めている。いじ</p>		

	<p>めに関してはスクールカウンセラーを派遣し、被害生徒の心のケアや加害生徒の見守りを行っている。不登校に関しては教育支援センター「菽輝きスクール」を運営し、教室復帰を目指す児童生徒を励まし続けている。また悩みを抱えた保護者にはスクールソーシャルワーカーを派遣し、様々な支援機関と繋げ、寄り添っている。</p> <p>④子育て科創設事業</p> <p>近年、核家族化や少子化など人間関係が希薄となり、家庭教育力や地域の教育力が低下していることが問題となっている。子育てに関して、さまざまな視点から学び、長期的な視点に立ち、将来大人になって、親や地域の一員として、子育てに積極的に関わろうとする人づくりめざす。今実施している授業のうち、小中学校9年間で約100時間の授業を「子育て科」として実施し、「学ぼう自分の育ち、感じよう家族の愛情、伝えよう命の尊さ」をキャッチフレーズとして、系統立てて学習していく。</p>															
成 果	<p>①生きる力をもった子ども育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チャレンジ目標を設定し、学校評価の中に位置づけている－95% <p>学校のきまりや約束事、対応の基準を年度当初に児童生徒や保護者に説明し、理解を得るためである。また、このチャレンジ目標については、各学校運営協議会で承認され、地域も前向きに支えており様々なマンパワーの支えもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 週1回以上のアンケートの実施－100% <p>市内の全小中学校は週1回以上、生活アンケートを実施しており、児童生徒の心に寄り添っている。</p> <p>②スクールガードリーダー設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間登下校時における無事故の学校の割合－86% <p>スクールガードリーダーは、児童生徒の安全安心のために日々学校と連携を図り、事件・事故未然防止に尽力している。</p> <p>③子ども相談・支援室設置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども相談・支援室が役に立ったという学校－100% ○ いじめ・不登校・暴力行為の出現率・発生率の減少 <p>*平成27年度の状況（ ）内は平成26年度との比較</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・不登校</td> <td>小学校</td> <td>0.05(-0.14)</td> <td>中学校</td> <td>2.25(+0.13)</td> </tr> <tr> <td>・いじめ</td> <td>小学校</td> <td>2.18(+0.9)</td> <td>中学校</td> <td>4.86(+0.63)</td> </tr> <tr> <td>・暴力行為</td> <td>小学校</td> <td>0.40(+0.35)</td> <td>中学校</td> <td>0.36(+0.27)</td> </tr> </table> <p>*数値は児童生徒100人当たりの出現率・発生率</p> <p>平成27年度の問題行動調査において、暴力行為は小学校で8件。中学校で4件起こっている。昨年度は、小学校は0で中学校が1件だった。大きく件数が伸びた要因は、うまく自分の感情をコントロールしたり、他人に言葉で伝えることのできない児童生徒が増えたことによるものである。</p> <p>いじめについては、文部科学省の指導により、その基準も大きく変わり、調査も発生件数から認知件数へと変化した。小学校で48件、中学校で54件認知され、</p>	・不登校	小学校	0.05(-0.14)	中学校	2.25(+0.13)	・いじめ	小学校	2.18(+0.9)	中学校	4.86(+0.63)	・暴力行為	小学校	0.40(+0.35)	中学校	0.36(+0.27)
・不登校	小学校	0.05(-0.14)	中学校	2.25(+0.13)												
・いじめ	小学校	2.18(+0.9)	中学校	4.86(+0.63)												
・暴力行為	小学校	0.40(+0.35)	中学校	0.36(+0.27)												

	<p>その解決のために全職員が組織的に対応し、ほぼ解消している。</p> <p>不登校（年間30日以上欠席）の児童生徒数は、小学校で1人。中学校で25人である。発生率は小学校が26年度0.19%から0.05%に減少したが、中学校においては26年度2.11%から2.25%と微増した。ただ、その全てのケース会議に、子ども相談支援室が参加し、他機関と連携を取りながら継続的な支援を行っている。</p> <p>④子育て科創設事業</p> <p>○ 「子育て科」の実施率－100%</p> <p>「萩らしい教育」の一環として平成25年度から3年間、理念の検討やカリキュラムの策定、外部機関との連携など平成28年度スタートのために準備を重ねてきた。平成27年度は試案のカリキュラムを全小中学校がそれぞれの地域性や伝統文化も生かしながら、実施した。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>①生きる力をもった子ども育成事業</p> <p>各校のチャレンジ目標はおおむね達成し、萩市では生徒指導上での重大案件は起こっていない。しかし、どの学校においても様々な問題を抱えた児童生徒の困り感に教師は全力で寄り添っている。特に近年は、幼少時に家庭環境において思うような愛情が得られないと推測される児童生徒が増え、対人スキルの未熟さから集団に馴染めずに様々なトラブルを抱えることも少なくない。そういった児童生徒の「育てなおし」に保護者と学校と地域が協力して、社会生活に適應できるよう支援していくことが課題である。</p> <p>また、週1回の生活アンケートに関しては、マナー化してきて、情報が上がりにくくなっている部分があるため、研修会等で各校がそれぞれのアンケートを持ち寄り、情報交換をして、自校アンケートに常に工夫・改善を加えている。</p> <p>②スクールガードリーダー設置事業</p> <p>年間登下校時における無事故の学校の割合は85%を超えることができたが、児童の飛び出しや、自転車通学生徒の自動車との接触事故など、軽微なものは続いている。これからも危険予知トレーニング学習などをスクールガードリーダーと学校が協力して行い、交通事故をはじめとした様々な危機、災害、トラブルから児童生徒が自分で身を守る意識と技術を習得することを目標として取り組みを深めたい。</p> <p>③子ども相談・支援室設置事業</p> <p>今後は、自分の感情をうまくコントロールできない児童生徒が増えてきていることから、アンガーマネジメントの啓発に努めていく。また、いじめに関しては、各校のいじめ会議に子ども相談支援室として参加し、「危機意識と人権意識の高い教員集団がいじめを生まない魅力的な学校を作る」合い言葉に、学校も未然防止に全力をあげている。不登校に関しては、教育支援センター「萩輝きスクール」に繋ぐことを目標とし、休み始めの早い時期から学校と保護者と関係機関とで協力し支援</p>

	<p>している。また、完全な引きこもりを作らないための定期的な家庭訪問やアウトリーチ活動が有効なため他機関と連携して今後も行っていきたい。</p> <p>④子育て科創設事業</p> <p>小学校一年生から、命の大切さや、家族のありがたみ、子育ての大切さや楽しさを9年間かけて学ぶことで、社会総がかりで子育てを支援していく町づくりを目指す本事業はまだ始まったばかりだが、これからの継続した取組が成果に結びつくものとする。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を越えて遊ぶことも少なくなっており、上の子が下の子の面倒をみるような人とのつながりは大切なので、子育て科の事業を積極的に進めて欲しい。 ・小中併設校では縦割り学習があると思いますが、上下関係が希薄になっているので、縦割り学習を取り入れることも必要なのでは。 ・いじめ相談では、他の関係機関との連携を強化していただきたい。

重点取組 事項	健やかな体の育成	担当課	学校教育課
目的	<p>子どもの実態に応じた健康づくりの取組や生活習慣の見直しを家庭とともにいたり、萩地域の食材を生かした献立を使った食に関する指導を行ったりすることで、学校と家庭と一緒に健やかな体づくりを推進する。</p>		
目標	<p>① 一校一取組推進事業 ・毎週、曜日・時間を決めて運動時間を実施する学校の割合－100%</p> <p>② 保健推進事業 ・児童生徒の95%以上が朝食を食べる学校の割合－100% ・生活習慣のチェック、改善を保護者とともに実施する学校の割合100%</p> <p>③ 食育推進事業 ・担任と栄養教諭・栄養士、養護教諭とのチームティーチングによる食育指導を実施する学校の割合－100%</p>		
実施状況	<p>① 一校一取組推進事業 ・全ての小中学校において、運動の時間を設けて取り組んでいる。(早朝ランニングや業間体育など)</p> <p>② 保健推進事業 ・保護者と連携して、生活習慣をチェックして、朝食を食べるという児童生徒を増やしていく。</p> <p>③ 食育推進事業 ・担任と栄養教諭・栄養士、養護教諭とのチーム・ティーチングによる食育指導を実施し、バランスよく食べることの重要性を指導した。 ・萩地域の特色を生かした献立を使った食に関する指導を実施した 萩まるごと食べちゃろうデー：毎月実施 県産食材100パーセント献立：年間6回実施</p>		
成果	<p>① 一校一取組事項 ○ 年間を通して、毎週決まった曜日・時間に実施する学校－100%</p> <p>② 保健推進事業 ○ 児童生徒の95%以上が朝食を食べる学校－85% ○ 生活習慣のチェック、改善を保護者とともに実施する学校－100% ・生活習慣チェックを家庭とともに行うことで、朝食をとる習慣が定着している。</p> <p>③ 食育推進事業 ○ 担任と栄養教諭・栄養士、養護教諭とのチームティーチングによる食育指導を実施する学校－100%</p>		

<p>今後の取組</p>	<p>① 各学校での取組を継続することで、適切な運動量の確保と体力向上への正しい理解が得られるようにしていく。</p> <p>② 生活チェックを継続して行うことで、望ましい生活習慣づくりを行うとともに、体力や運動習慣に関する情報の発信をし、家庭や地域とともに健康な体づくりの意識を高めていく。</p> <p>③ 萩地域の特色を生かした献立を使った食に関する指導を充実させ、県産食材 100 パーセント献立の回数を年間 9 回実施する。また、保護者、地域と連携した食習慣改善に向けた取組の充実を目指す。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模校では難しいかも知れませんが、元気手帳などの生活習慣をチェックすることは年間を通じて行っていただきたい。 ・児童、生徒の生活習慣をチェックするため、萩市で統一した項目内容の健康手帳を作成し、活用することはいいのではないかと思います。

重点取組事項	地域コミュニティの核としての学校づくり	担当課	学校教育課												
目的	コミュニティ・スクールを核として、地域や保護者が連携・協働した取組を進めることで、地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支える取組を推進する。														
目標	① コミュニティ・スクール推進事業 ・学校運営協議会設置率－100% ② 開かれた学校づくり事業 ・ホームページを運営する学校の割合－100% ・学校評価を公表する学校の割合－100%														
実施状況	①コミュニティ・スクール推進事業 萩市全体における地域住民の来校者数や見守り活動参加者数、児童生徒の地域ボランティアへの参加回数等は以下のとおりである。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">・学校運営協議会の開催数（1校あたり）</td> <td style="text-align: right;">約4.3回/校</td> </tr> <tr> <td>・地域住民の来校者数（のべ人数）</td> <td style="text-align: right;">約30,000人</td> </tr> <tr> <td>・授業に活用した地域人材の人数（のべ人数）</td> <td style="text-align: right;">約3,000人</td> </tr> <tr> <td>・部活動に活用した地域人材の人数（のべ人数）</td> <td style="text-align: right;">約1,500人</td> </tr> <tr> <td>・見守り活動への参加者数（のべ人数）</td> <td style="text-align: right;">約25,000人</td> </tr> <tr> <td>・児童生徒の地域ボランティア参加回数（1人あたり）</td> <td style="text-align: right;">約3.2回/人</td> </tr> </table> ②開かれた学校づくり事業 ホームページでは、学校行事の様子やコミュニティ・スクールの取組、学校給食などが紹介されている。5校の学校が未開設となっているのは、WEB作成に長けた教職員が在籍していないことが主な理由である。 学校評価を公表している学校の割合は100%である。公表方法としては、学校だよりに掲載、PTA総会（懇談会）や学校運営協議会での説明、ホームページに掲載等がある。			・学校運営協議会の開催数（1校あたり）	約4.3回/校	・地域住民の来校者数（のべ人数）	約30,000人	・授業に活用した地域人材の人数（のべ人数）	約3,000人	・部活動に活用した地域人材の人数（のべ人数）	約1,500人	・見守り活動への参加者数（のべ人数）	約25,000人	・児童生徒の地域ボランティア参加回数（1人あたり）	約3.2回/人
・学校運営協議会の開催数（1校あたり）	約4.3回/校														
・地域住民の来校者数（のべ人数）	約30,000人														
・授業に活用した地域人材の人数（のべ人数）	約3,000人														
・部活動に活用した地域人材の人数（のべ人数）	約1,500人														
・見守り活動への参加者数（のべ人数）	約25,000人														
・児童生徒の地域ボランティア参加回数（1人あたり）	約3.2回/人														
成果	①コミュニティ・スクール推進事業 ○ 学校運営協議会の設置率－100% 平成27年度に11校が学校運営協議会を新たに設置し、100%の設置となった。全市的な取組に発展したことで、他校の先進的な取組を参考に各コミュニティ・スクールが充実してきた。多くの学校において学校課題を共通理解する「熟議」が行われ、教職員や保護者・地域住民が共通理解のもとで学校課題解明の取組を推進することができた。学校へ来校する地域住民の人数や児童生徒のボランティア活動への参加回数も増加しており、学校が地域と一体となった取組が進められている。 ②開かれた学校づくり事業														

	<p>○ ホームページを運営する学校－８６％</p> <p>学校行事の詳細をホームページで公表している学校では、児童生徒の様子や感想などが写真付きで分かりやすく公開されており、保護者にも好評である。</p> <p>また、ホームページでコミュニティ・スクールの情報を積極的に公開している学校では、地域に学校の教育活動をタイムリーに発信できるツールとなっている。また、そのWEB上の情報を手がかりに他県からの視察申込が多く寄せられており、萩市の先進的な取組が他県に波及している様子がうかがえる。</p> <p>学校評価の公表が進んでおり、学校関係者の間に評価項目が浸透しつつある。学校の特色に関する内容を評価項目に取り入れることで、学校独自の取組を関係者に理解していただく機会となっている。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>①コミュニティ・スクール推進事業</p> <p>平成２８年度に統廃合・新設される学校が学校運営協議会を設置し、萩市全体のコミュニティ・スクール体制が整うこととなる。今後は、各中学校区における「地域協育ネット」と一体化した取組を推進することで、学校を核としたコミュニティ・スクールを一層推進していく。</p> <p>②開かれた学校づくり事業</p> <p>ホームページを運営する学校を１００％とするために、教職員の研修機会の保証、運営・作成に係る情報の提供などに努める。また、学校運営協議会で見出された「求める児童生徒像」に係る項目を学校評価に取り入れることで、学校運営協議会と連携したPDCAサイクルを進めていくことができるようにする。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの推進されており、地域に開かれた学校になっているが、同時に先生の負担も増えているので、軽減できるようにしていただきたい。 ・お年寄りの話を聞くと学校の話が多く、学校に行って元気を貰っておられる。お年寄りだけでなく、いろんな方が学校に行って地域の学校として盛上げ、地域の活性化につながればいいと思います。

重点取組 事項	教育の専門家としての教師の育成	担当課	学校教育課
目的	初任者、2年次～4年次、ミドルリーダー等、教員それぞれのキャリアステージに応じて、基礎的・基本的な研修から専門的な研修まで実施することで、個々の教員の資質を向上するとともに、各学校におけるOJTの促進につなぐ。		
目標	① 教育の専門家としての教師の育成 ・1000日プランの作成・実施 100%（1000日プラン対象者の在籍校）		
実施状況	<p>①キャリアステージに応じた教職員研修事業</p> <p>○はぎ人材育成1000日プランの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての対象教員（初任者～4年次49名）が1000日プランを作成。またプランやその実施状況を人材育成会議で共有し、全校体制で人材育成に当たった。 ・1000日プラン担当者会議を行い、市内の各学校の人材育成の中核となる教員で対象教員の成長や課題を共有したり指導方針についての協議を行ったりした。 ・1000日プラン実践研修会を延べ4回実施（一斉研修会、地区別研修会3回）指導案づくり、公開授業及び授業検討会を行い、学習指導を中心に教員としての基礎的・基本的な資質の向上を図った。 <p>○ミドルリーダー研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中堅教員（14名）に対して、学校経営に係る様々な角度からの専門的な研修を計7回実施。 <p>○萩塾の実施</p> <p>授業等の各分野のスペシャリストが実践事例を発表したり、ワークショップ型研修を行ったり、実効性のある研修を実施。学習指導、生徒指導、特別支援教育、道徳教育、ふるさと学習（ジオパーク関係）等の内容で、計7回実施した。</p>		
成果	<p>①キャリアステージに応じた教職員研修事業</p> <p>○1000日プランを実施する学校の割合－100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1000日プランの仕組みをシンプルに示したことで、各学校の取組も活性化し始めた。また研修を通して学校の垣根を越えた教員の繋がりが生まれてきている <p>○ミドルリーダー研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した中堅教員は、自分の学級や授業だけでなく、学校全体を俯瞰した視座に立ち、学力向上、人材育成、地域貢献等、様々な角度からの研修を深めた。 		
今後の取組	<p>① キャリアステージに応じた教職員研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内すべての学校のはぎ人材育成1000日プランや各学校の校内研修の計画を共有し、学校主体の小中連携、小小連携、中中連携による授業研究等の研修の活性化を図る。 ・萩塾、ミドルリーダー研修会の講師として市内の教員を積極的に起用し、日々の研修の成果を発表する機会を増やすことで、教員のさらなる資質向上を図る。 		
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会、書類の作成等で先生は大変忙しいので、事務の簡素化を図り、子どもとのふれあいを増やすことが必要。先生が働きやすい環境改善をしなければ、いい教育をすることができない。 		

重点取組 事項	特色ある学校づくりの推進	担当課	学校教育課																																
目的	地域や学校の特色を鮮明にした教育の実現に向けて、特色ある教育活動推進拠点校（コアスクール）を設定し、創意と活力に満ちた学校づくりを推進する。																																		
目標	①特色ある教育活動拠点校構想事業 ・拠点校の設置率－100%																																		
実施状況	<p>①特色ある教育活動拠点校構想事業</p> <p>コアスクールの取組は以下のとおりである。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・松陰教学：</td> <td style="text-align: right;">2校</td> <td>・コミュニティ・スクール：</td> <td style="text-align: right;">5校</td> </tr> <tr> <td>・ふるさと学習：</td> <td style="text-align: right;">11校</td> <td>・小中連携教育：</td> <td style="text-align: right;">7校</td> </tr> <tr> <td>・保小中連携教育：</td> <td style="text-align: right;">2校</td> <td>・小中一体教育：</td> <td style="text-align: right;">2校</td> </tr> <tr> <td>・一人ひとりを生かす教育：</td> <td style="text-align: right;">1校</td> <td>・漁業学習：</td> <td style="text-align: right;">2校</td> </tr> <tr> <td>・キャリア教育：</td> <td style="text-align: right;">3校</td> <td>・地域との連携：</td> <td style="text-align: right;">12校</td> </tr> <tr> <td>・農業・林業体験学習：</td> <td style="text-align: right;">4校</td> <td>・学校ボランティア有効活用：</td> <td style="text-align: right;">1校</td> </tr> <tr> <td>・伝統文化の継承・発信：</td> <td style="text-align: right;">1校</td> <td>・表現力育成：</td> <td style="text-align: right;">1校</td> </tr> <tr> <td>・複式教育：</td> <td style="text-align: right;">1校</td> <td colspan="2" style="text-align: right;">※重複するテーマ有り</td> </tr> </table>			・松陰教学：	2校	・コミュニティ・スクール：	5校	・ふるさと学習：	11校	・小中連携教育：	7校	・保小中連携教育：	2校	・小中一体教育：	2校	・一人ひとりを生かす教育：	1校	・漁業学習：	2校	・キャリア教育：	3校	・地域との連携：	12校	・農業・林業体験学習：	4校	・学校ボランティア有効活用：	1校	・伝統文化の継承・発信：	1校	・表現力育成：	1校	・複式教育：	1校	※重複するテーマ有り	
・松陰教学：	2校	・コミュニティ・スクール：	5校																																
・ふるさと学習：	11校	・小中連携教育：	7校																																
・保小中連携教育：	2校	・小中一体教育：	2校																																
・一人ひとりを生かす教育：	1校	・漁業学習：	2校																																
・キャリア教育：	3校	・地域との連携：	12校																																
・農業・林業体験学習：	4校	・学校ボランティア有効活用：	1校																																
・伝統文化の継承・発信：	1校	・表現力育成：	1校																																
・複式教育：	1校	※重複するテーマ有り																																	
成果	<p>①特色ある教育活動拠点校構想事業</p> <p>○拠点校の設定率－100%</p> <p>○地域を学習の場として地域人材を活用した教育活動が展開され、地域の歴史や産業等を継承・発展させる心情を育てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明倫小学校、椿東小学校・・・松陰教学、松下村塾の志を取り入れた教育 ・大島小中学校・・・地域産業としての漁業体験を通じたキャリア教育 ・むつつみ中学校・・・豊かな森林資源を活用した体験学習 <p>○学校規模や学校の立地条件を活用し、小中学校で一貫した教育活動が展開され、幼児・児童・生徒間のつながり、地域とのつながりが深まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三見小中学校、越ヶ浜小中学校・・・小中連携教育の推進 ・木間小中学校、大井小中学校・・・保小中連携教育の推進 																																		
今後の取組	<p>①特色ある教育活動拠点校構想事業</p> <p>小中連携・一貫教育が進み、共通のテーマで特色ある教育活動を展開する素地が整ってきた。今後は、同一校区の小中学校が実施している各活動を9年間のカリキュラムの中に明確に位置づけ、中学校区で育てたい児童生徒像と結び付けて実践していく必要がある。</p>																																		
学識経験者の意見	<p>・コアスクールは先進的な取り組みを進めている学校ですが、他の学校からカリキュラム等を参考にして推進をしていただきたい。</p>																																		

重点取組 事項	教育環境の整備	担当課	総務課
目的	計画的な学校施設等の整備や情報化の進展に対応した機器整備など安全で質の高い教育環境の整備、充実を図る。また、中学生が地元の高校へ進学しやすい環境を整え地元高校への進学率の向上を目指す。		
目標	①学校施設の耐震化率100%。 ②学校の無線LAN整備率100%。 ③学校給食の県産食材使用率70%。 ④中学校卒業生の地元高校への進学率80%。		
実施状況	①学校施設整備事業 ○改築・増築事業 ・見島小中学校…校舎改築工事（平成25年度～平成27年度） ・明木小中学校…校舎及び屋内運動場改築工事（平成26年度～平成27年度） ・福栄小中学校…小学校校舎増築及び中学校校舎改修工事 ・大井小中学校…屋内運動場改築及び中学校校舎改修工事 ○耐震補強事業 ・椿東小学校……校舎耐震補強工事（2期工事） ・越ヶ浜小学校…校舎耐震補強工事 ・多磨小学校……校舎及び屋内運動場補強工事 ○遊具整備事業 ・危険遊具の撤去75基 ・遊具の新設22基、改修3基 ②情報教育基盤整備事業 ○無線LAN整備 改築・増築、耐震補強事業に併せて11校で無線LANを整備 ○タブレット型コンピューター整備 19校でタブレット型コンピューターへ更新 ③安心安全な学校給食提供事業 ○食育及び地産地消の推進を図るため萩産の食材を活用する「萩まるごと食べちゃろうデー」を毎月、「県産食材100%献立」を6回実施 ④地元の高校へ進学しやすい環境整備事業 ○地元の高校へ遠距離通学する高校生を対象に列車、バス定期代の一部を助成 ○萩市公式ホームページに市内の下宿情報を提供する「下宿バンク」を設置 ○市報により市内高校の特色等を情報発信		
成果	①学校施設整備事業 ○改築・増築、耐震補強事業の年度内完了により、平成27年度末における学校施設の耐震化率100%を達成（前年度末80.2%）		

	<p>○平成26年度点検により危険と判定された遊具の撤去完了</p> <p>②情報教育基盤整備事業</p> <p>○無線LAN整備率48.6%（前年度末16.7%）</p> <p>○タブレット型コンピューター整備率51.4%（前年度末0.0%）</p> <p>③安心安全な学校給食提供事業</p> <p>○県産食材使用率68.5%（前年度62.4%）</p> <p>④地元の高校へ進学しやすい環境整備事業</p> <p>地元高校への進学率68%（前年度73%）</p>
<p>今後の取組</p>	<p>①学校施設整備事業</p> <p>○耐震化完了後の学校施設については、計画的に予防保全、改修等を実施し、安心・安全な教育環境の確保、施設の長寿命化を図る。</p> <p>○遊具については、平成26年度点検分にかかる新設、改修を平成28年度完了するとともに、今後、定期的に安全点検を実施し、必要に応じて撤去、新設、改修を行う。</p> <p>②情報教育基盤整備事業</p> <p>○無線LAN整備については、平成29年度を目途に整備率100%を目指す。</p> <p>○タブレット型コンピューター整備については、平成29年度を目途に整備率100%を目指す。</p> <p>③安心安全な学校給食提供事業</p> <p>○産地情報交換会を毎月行い、引き続き「萩まるごと食べちゃろうデー」等を実施するなど地元産食材の使用に努め、平成28年度の県産食材使用率70%を目指す。</p> <p>④地元の高校へ進学しやすい環境整備事業</p> <p>○引き続き通学費の支援を行うとともに、平成28年度は、離島や遠距離等通学困難な高校生を対象とした女子寮を整備（平成29年4月の供用開始予定）するなど市内の高校へ進学しやすい環境整備を図る。</p> <p>また、中高連絡協議会を設置し、中学校、高校、教育委員会が連携を図り中学生が市内の高校へ進学したいと思う環境づくりを推進する。</p> <p>これらの取組により、平成29年3月中学校卒業生の地元高校への進学率80%を目指す。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔地からの生徒にとって寮の整備は必要であり評価できます。できれば男子寮の整備も必要。 ・今年は害虫が多く発生しているので、害虫対策を徹底して行っていただきたい。